

京都教育大学FDニュース

No. 46

2009年2月9日

FD委員：村上登司文、榊原典子、和田尚、泉恵美子

FD研修会（第2回）を振り返って

1月21日(水)13時20分より、大学教育改善の一環として、本年度第2回FD研修会を開催し、約50名の教職員にご参加いただきました。この研修会は学生評価が高かったお二人の先生方に授業のコツなどを教えていただき、各自の授業改善につなげていただくとの目的がありました。簡単にお二人のご発表をまとめさせていただきます。

まず、教育学科の岡部美香准教授より、「大人数・講義形式の授業において学生のコミットメントをいかに高めるか」というタイトルで、「教育の理念と歴史」(教職・必修)の日ごろの授業についてお話をいただきました。特に、前任校の体験を踏まえ、教育の歴史を教えるにあたって、学生のコミットメントをどう高めていくかが課題であるとされ、3つの特徴について話されました。(1)教えられる者から教える者への視点の転回と受講生の視野の拡張を図る、(2)個人の体験を重視し、教育を受けた体験を否定せず、それこそが学問の積み重ねの基礎になると思わせる、(3)ワークショップのなかで体験と理論を結ぶことを中心に授業を行うとのことでした。例えば、最初の授業で○、△、／を組み合わせて学生に自由に絵を描かせ、自分が書いたのと同じ図形が描けるように人に説明させる中で、教えるとはどういうことかを体験してもらい、教えたこと、教えた方法を知っていても相手との距離や状況が分からなければできない、つまり、相手と同じ土俵に立っていないことを認識してもらうのだと語られました。また、学生の個人の体験をベースにして教育学を学び、教育学的知識を身につけてもらいたいとの思いで、紙を2枚準備し、それぞれに小学校、高等学校の教室にあったものを書き出し、その違いを考察することで発達段階を意識してもらうワークショップについてもご紹介されました。目標は学生の個人的な教育体験・被教育体験を重視し、そこから教育学的な思考を展開できるような授業とのことで、そのような作業と理論を用いて説明していき、学生が理解をしていくといった過程に無理がなく、是非先生の授業を受けてみたいという気にさせられました。

また、学生に、毎回小さな紙に質問や考えたこと、日常的な自分の体験を取り上げて書いてもらい、次の時間の最初20分くらいで、いくつか代表的なものを取り上げコメントを返されておられ、そのプチ・双方向的な授業の中で、学生は、自分のしていることを理論的な言葉で語れると認識し、自分を語りコメントを書くようになり、次第にコメントが自分の体験を取り上げるようになり、授業にコミットメントしていこうとの思いを抱くようになるそうです。来年度からはテキストを使用し、家族や自分の年表を作成させ、教育・社会・個人の歴史を俯瞰させたいとのことでした。最後に「学生には自分自身が歴史の中にいることを伝えたい。社会や教育が動き、流れている中で教育を考えたり受け取ったりしてもらいたい。」と熱い思いを語られました。

次に、「学生の法則・教師の法則—幸せな授業のためのささやかな傾向と対策(と苦悩)」と題して国文学科の森山卓郎教授にご発表をいただきました。先生のご発表では、たくさんキーワードが登場しましたが、いずれも分かりやすく、言語センスにあふれ、大変興味深い命名でありました。特に、教師の時間的資源は有限で、授業の時間が取れないことも多く、また、いくら良い授業をしても学生の身に付いているか、ためになるか、最終的に学生がどうなるかが大切と力説され、効率的、現実的やり方も重要であると述べられました。まず、授業内容の法則として、プラトンの法則、ビゴツキー作戦、主人公の法則、シラバス作戦、エクセルの使用説明書の法則、お役立ち作戦、ソクラテスの法則、手遅れの法則などについて話され、学生が聞きたい内容になっており、聞いたこ

とがどう役立つかが目に見えてこないといけない、学生に疑問を持たせ、自分の無知に気付かせたり、わかるまで解説することの大切さと、授業内容をしっかり押さえることが基本であると述べられました。

次に、授業管理の法則、知識のエントロピーの法則として板書の有効性や、3 チェック作戦、出席カードに質問を書かせ、質問コーナーで取り上げたり、「これ」作戦で学生の集中度を確認され、一人ひとりに話しかけられている様子も楽しく拝聴しました。また、孟子の法則として、学生のやる気を引き出し、相互点検型授業を取り入れ、学生同士で読み合うことで、互いにチェックする目を育成したり、授業新聞作戦、プロジェクトやディベート法で互いに批判しあい、調べる能力や話の仕方がうまくなること、群読や音読を取り入れる有効性なども具体例を挙げてご紹介されました。一方、成績の管理は難しいとされ、レポートインテスト法など役立つ方法もご紹介いただきました。最後に教師の法則として、ディズニールランドのトイレの法則など、年中多忙な先生も学生も両方幸せ、よしと思える授業を目指すことを心がけられておられると締めくくられました。

両先生とも学生を思う温かい視線とお人柄、そして独創的なアイデアにあふれ、学生を中心とした楽しく工夫を凝らした授業をされているご様子うかがえ、是非ご発表の内容を参考にさせていただき、自分の授業にも取り入れたいと感じさせられました。お忙しい中、ご発表頂き本当に有難うございました。

それぞれの教員が教育内容や方法を改善したり、学生が中心となり学生を育てるシラバスを開発したり、評価を工夫したりするなど、学生も教員も楽しく満足できる質の高いより良い授業を進めるために、FD 委員会では、今後もすぐれた授業や実践等を FD ニュース等で報告し、蓄積していきたいと考えております。これからも研修会へのご参加やご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

FD 関連研修会等のご案内

以下のフォーラム、研究会が開催されます。詳細は HP または、FD 委員にお問い合わせ下さい。

- 1 第14回FDフォーラム:「学生が身につけるべき力とは何か? 一個性ある学士課程教育の創造」
日時:平成21年2月28日(土)13:00~、3月1日(日)10:00~15:00
会場:龍谷大学深草キャンパス(両日とも)(*案内配布済み)
- 2 第2回関西地区FD連絡協議会主催イベント 公開研究会 「授業評価からFD評価へ」
日時:2009年3月19日(木)14:00~17:30
http://www.kansai-fd.org/activities/event01/fd_090319.html
場所:京都大学 百周年時計台記念館 2階ホール
進行:大塚雄作(京都大学高等教育研究開発推進センター)
話題提供:米谷淳(神戸大学大学教育推進機構)、安岡高志(立命館大学教育開発推進機構)
栗田佳代子(大学評価・学位授与機構)、羽田貴史(東北大学高等教育開発推進センター)
- 3 第15回「大学教育研究フォーラム」のお知らせ
日時:平成21年3月20日(金)・21日(土)
場所:京都大学 百周年時計台記念館・吉田南1号館
主催:京都大学高等教育研究開発推進センター
<http://www.kansai-fd.org/activities/event01/15.html>

後期授業アンケートにご協力を賜りまして、誠に有難うございました。集計結果は3月上旬頃にお手元に届く予定です。授業研究にお役立て下さい。